

地域の課題解決を支援する取り組み

地域課題解決型学習に取り組んでみませんか



この本を手にとられた方は、地域課題について関心をもっていらっしゃることでしょう。

けれども、地域課題ってなに？、地域課題解決型学習ってなに？、公民館でできるの？、私でもできるの？・・・とも思っているのではないでしょうか。

アバンセも最初は、そうでした。いろんなところで社会教育や公民館は地域課題解決にむけての学習を組織していくことが重要だと言われても、どう取り組んでいったらいいのか、まったく見当が付きませんでした。

地域をまわってみると、公民館の体制が少しずつ変化しており、いろんな事業も減少しているようでした。市町村合併もあり行政の体制も変わり、予算も減らされ、公民館主事の任用形態も変わったりと、この15年ぐらいの間に、いろんな出来事がありました。

それでも地域には、人が住み続けています。地域に愛着をもち、ここで暮らし続けたいと思っている人がたくさんいます。これまでと同じように公民館を愛し、公民館を利用してくれる人もたくさんいます。公民館職員は、そういう人たちの想いにどう応えていくことができるのでしょうか。

そのひとつの手法が、地域課題解決型学習をつくりだしていく講座なのです。そこに住んでいるというだけで、地域の団体や行事に参加するのは当たり前だと考えられていた時代がありました。今では、長く住み続けている人もいれば、引っ越してきた人もいます。農家もあれば共働き家庭もあり、シングルの家庭も珍しくなくなりました。いろんな人が住んでいるのです。暮らし方も変わってきているので、これまでのような地域ルールが必ずしも通用する時代ではなくなりました。

住んでいれば、誰でも幸せに、そして安心感をもって暮らしたいと思います。人生の時間も長くなり、住み慣れたところで、また友人たちがたくさんいて人間関係が良好な地域で健康に暮らし続けたいと思います。そんな地域を求めています。たしかに実際の社会は、高齢化していたり、買い物や通院に不便だったり、ご近所づきあいも少なくなったり、といろんな問題を抱えています。

地域課題解決型学習とは、地域が抱えるトラブルの解決法を探ると思いがちです。しかしそれだけではなく、誰もがここに住んでいて良かった、ここに住み続けていたいと思えるような地域社会をつくり出すことをめざしています。公民館の機能を発揮して地域の人々の暮らしづくりを応援することです。

アバンセの課題解決支援講座ってなに？

思い切って課題解決支援講座に取り組んでみようと思っても、具体的には何をどうしたらいいのか、なかなか考えつかないものです。公民館で何ができるのか、そこで行き詰ってしまう場合も少なくありません。誰かに相談したくても、いったい誰に相談したらいいのかわからない。そんな気持ちになったことはありませんか。

アバンセでは、10年前に市町教育委員会と公民館の3者協働で課題解決支援講座に取り組んでみましょと提案しました。というのは、その当時の市町教育委員会に「地域課題はありますか」と問いかけてみると、「地域課題はありません」、「地域課題解決とか考えたことはありません」といった反応が少なくなかったのです。地域課題がないはずはないのに、おそらく取り組む余裕やノウハウがなくなってきたのだろうと推測されました。

一人の主事だけではできませんし、単独の公民館だけでも難しいでしょう。三人寄れば文殊の知恵ではありませんが、アバンセと一緒に考えて取り組んでみましょ、というのが課題解決支援講座のスタートだったのです。一緒に地域の現実をみて、一緒に考えて、いい方法を開発していく。この本はその10年間にわたる記録なのです。

読んでいただくと試行錯誤の連続だということがわかります。なぜなら県内のどの地域もひとつ

として同じところはなく、同じ公民館はないからなのです。確かに一つの自治体内では、公民館の体制は同じです。しかし、そこに住む人たちの顔を思い浮かべたとき、誰一人として同じ人はいません。同じ公民館職員はいないのです。

他の自治体や公民館の取り組みは、とても参考になります。学ぶところも多いのです。公民館相互の経験交流や共有はとても大切ですが、参考になったとしても他の成功事例が自分の公民館で通用するかといえば、それは別問題なのです。参考にしながら、自らの地域に即して課題を発見し、それを学習課題として設定して公民館の講座を組み立てていかなければなりません。

それを3者協働で取り組んでみようというのが、アバンセの課題解決支援講座でした。どの事例も成功したのかと問われれば、皆さんの判断に委ねるしかありません。ですがアバンセとしては、どれも成功でした。かつ、どの事例も道半ばでした。つまり課題解決支援講座には終着点がなく、いつも道半ば、志半ばということなのです。人間が、幸せとは何だろうと考えながら生きていくのと似ています。幸せの結論はありません。それと同じように、生きがいをもって暮らし続けることのできる地域をつくることに終わりはなかったのです。

地域課題解決型学習によって 一人ひとりが主人公に

地域の課題と一言でいいますが、発見するのは簡単なことではありません。一般的な課題としては、いろいろと思いつくことができるでしょう。人口減少、地域団体役員の担い手不足、地域の祭りや行事の維持、防災組織の立ち上げ、コミュニティスクールや地域学校協働活動の立ち上げ、高齢者の生きがいづくりやサロンづくり等々たくさん挙げることができます。公民館では、これらをひっくるめて地域活性化策を作り出さなければならぬ、と考えがちです。さらに問題なのは、課題は絡まった糸のようになっていることです。

公民館は、何でも屋のように期待されるところがあります。しかし、すべてのことができるわけではありません。できるわけがないのにやろうとすると無理がでてきます。それがわかっているから逆に何もしない方がいいかも、と考えがちになります。絡まった糸をほぐすのは公民館の仕事ではない。団体のお世話や研修室を貸し出すのが、公民館の仕事だからと。

それでは地域づくりには結びつきません。幸せに暮らし続けることのできる地域を探し出すことはできません。しかし、やろうとすると手間がかかります。そんなことは、行政やコンサルタントに任せておけばいいのではないかと考える人もいます。ですが、行政は「共助」なのだから自分たちでできることは自分たちでやってほしいと言います。予算があればコンサルタントに任せる

こともできるでしょう。でもコンサルタントは夢を振りまきますが、一緒に考え行動してくれることはありません。どちらにしても、自分たちでやらなければならぬという結論が待っています。

考えてほしいことは、地域の困りごとを解決する、といっただけのイメージではないことです。というのは、行政ができないことの下請けや後始末をするのではないからです。例えば、ゴミ屋敷の清掃やオレオレ詐欺の防犯といったものです。これは社会福祉協議会や行政の仕事なのです。地域ではかかえきれない問題です。

公民館の地域課題解決型学習は、地域の困りごと解決というより、そこに住む人たちが、幸せに暮らすことのできる地域の未来にむけて自分たちの力で切り拓いていくことができる力を身につけていく、といった感じです。未来にむけての地域課題発見・解決力とそれを可能にする学習活動（エンパワー学習）がとても大切になります。言い換えれば、地域の一人ひとりが、地域をステージにして幸せを追求していく主人公になるといったイメージです。それを応援するのが公民館の役割であり、地域課題解決型学習なのです。



地域課題ってなんだろう？

課題解決支援講座に手を挙げる公民館は、地域活性化に向けてなんとかしたいという思いをもっています。防災教育をどう進めたらいいだろうか、子どもの見守りをどう進めたらいいだろうか、予算削減で祭りが維持できなくなった、まちづくり協議会の活動が停滞気味だけれど、どうしたらいいだろうか、などなどです。

おそらく他の多くの公民館でも、同じように感じているんじゃないでしょうか。ですから、こういう地域の問題をすぐに課題解決支援講座で取り組もうと考えがちです。でも少し待って下さい。それが本当に地域の課題なのか、と問いかけてみてほしいのです。公民館が考える地域課題かもしれませんが、住んでいる方が同じように感じているのでしょうか。

公民館の課題を地域課題にしてしまうと、公民館の困りごとを地域の人に解決させていこうとしてしまいます。そうするとやらされ感ができてしまい、うまくいきません。大切なことは、「地域の課題ってなんだろう？」というところからスタートすることです。

そこからスタートすると、準備段階がとても重要になります。どうやって進めたらいいのだろうか、どうやって発見したらいいのだろうかと戸惑います。この課題解決支援講座では10年の間に、いろんなことにチャレンジしてみました。

まずは、3者間で意見の出し合いをします。始まったばかりの頃は、アバンセが公民館に対して聞き取りをするといったやり方をとっていました。しかしこれではアバンセ主体になってしまいます。それで途中から意見交換をしながら、プロセスシートに書き出していくという方法に変えていきました。皆さんが何を地域課題と考えているのか、共通点や関心の置き方の違いが一目でわかります。プロセスシートは、巻末に収録していますので参考にして下さい。

みんなで地域を歩いたり、車窓から眺めたりもしました。どんな地域なのか知らないで講座を組むことはできないからです。公民館職員も知っていたようで知らなかったりするような場所もありました。

講座に参加してほしい人たち、例えばまちづくり協議会の皆さんとは、事前の打ち合わせから入ってもらったりしました。また、講座第1回開始の前に0回目を設定したりしました。そうやって関わりのある多くの人で地域課題を丁寧に発掘し、準備していく過程が、テーマの設定につながります。結果として講座の成否に大きく影響していくのです。

課題解決支援講座の 企画と進め方

準備の中で、ではどういう風に具体的な企画を立てようか、という話になります。まずは、回数や内容についてのイメージを出し合います。回数はだいたい3〜4回が多いようです。それだけでなく0回を設定したり、プラスワン講座といって追加したケースもありました。内容は多彩です。地域が抱えている課題や地域ビジョン作成は、ひとつとして同じものはないからです。

でも手法は共通している部分もあります。例えば、イベント企画、まち歩き、地域調査活動、防災教育、学校との連携、地域内の交流促進などです。イベント企画では、みんなでひとつの目標にむかって動きやすく、一体感や達成感がもちやすくなります。まち歩きでは、健康ウォーキングや、カメラをもつての地域探検、危険箇所の探索などがあります。地域調査活動は、高齢者や地域住民の意識調査です。講座参加者の意見を聞いて質問紙をつくり、調査の実施も民生委員や自治会長の協力を得て行ったり、子どもたちにインタビューを行ってもらったりと、多種多様です。防災は、自治体の防災担当や国土交通省の河川事務所等の関係機関の協力を得て行います。学校との連携は、授業の総合的な時間を活用します。地域内の交流は、アイスブレイクを行ったり、お茶・お菓子コーナーの設置、座談会、発表会、交流タイム、一品持ち寄り企画を作ったりといろんな取り組みがありました。

共通しているのは、まずは参加者の皆さんが楽しいなと思ってくれることです。そして意見が言いやすく参加者どうしの仲間づくりがはかられていくこと。意見を共有すること、地域とむきあうことのできる材料（調査結果など）をつくり出すこと。講師の先生から専門的に学ぶこと、等が挙げられます。

これを繰り返すことになります。しかし、単に繰り返しただけでは、講座は深まっていきません。回と回の間、必ず振り返りと次回の準備の時間を取ります。振り返りでは、こんな発見があった、参加者の一言が心に響いたなど、気づいたことを共有します。それをまとめて「講座通信」として発行し次回に配ります。欠席者も前回の内容がわかり、スムーズに話についていくことができます。

次回の準備は、気づきを踏まえて講師との打ち合わせやワークショップの段取りを行います。講座は生き物のような側面もあります。最初に企画した通りに進めるというわけではなく、参加者の皆さんの楽しさが増したり関心が高まったり、行動に移したくなるような手立てが大切になります。講座の企画とは、このような一年間にわたる一連の動きを意味しています。

課題解決支援講座は、 一年では終わらない

課題解決支援講座の回数は、多くても4回程度です。実はこれでは、地域課題解決には結びつきません。地域のことがわかり、問題状況が理解できたところで終了してしまいます。ようやく地域に対する関心が高まり、活動に向けての芽ぶきが見られ始めた程度です。問題は、これからどう育てていくことができるのか。公民館の腕のみせどころです。

循誘公民館で、見守り隊のボランティア養成を企画しました。3回の企画です。ですが、3回の講座ではボランティアへの理解やモチベーションを高めるところで終了してしまいました。だから最初から、フォローアップの講座を組んでほしい旨を伝えておきました。公民館は、講座終了後、引き続き「お茶ご会」を開催してくれました。そのときに参加者から、次の年度は「カレーの日」をやろうという提案がありました。それが今の「毎月10日はカレーの日」なのです。

「カレーの日」は、公民館の利用者団体の持ち回りで実施されていきます。そのうち、公民館主催の「男性料理教室」の受講生が加わります。さらに中学校の生徒たちが加わります。こうやって「カレーの日」の運営が広がっていきました。一方で、あまり公民館を使ったことがない大人たちや引きこもりがちな高齢者を誘い合って「カレーの日」に参加する人たちも増えてきま

した。結果として住民間の交流が盛んになり、高齢者の見守りが実現していったのです。

課題解決支援講座の成果は、開催年度だけでははかれないものです。最初の年は、キックオフのようなものです。それから参加者の皆さんの気持ちや関心を寄せ集め、解決へ向けての一步を踏み出していく。そんなプロセスを辿っていきます。だから一年では終わらないのです。

そうすると、公民館として考えておく必要があるのは、講座を展開しながら、それを次年度の講座や活動にどうやって発展させていくことができるのか、という点です。最初から考えても無理がでてきます。しかし、考えておかなければ、せっかく高まった感心が消え失せてしまいます。

継続の方法はいろいろです。集まるバーを開いたり、子ども横丁を続けたり、コンサートを開催したり、ウォーキングマップづくりに取り組んだり、キャンプをやったり。せっかくの関心を、ささやかでもいいので継続していく取り組みを工夫してほしいものです。

地域課題解決型学習は、息の長いものです。地域で暮らす幸せを、ずっと探し続けていくようなものです。楽しいものですが、公民館も息切れしないように、研修を重ねながら伴走していきましょう。

